

第11回科学技術予測調査（速報版）の概要

- 次期科学技術基本計画を始めとする科学技術イノベーション政策立案のための基礎的な情報を提供することを目的として実施。1971年から約5年毎に実施、今回は11回目の調査。
- 科学技術の未来像と社会の未来像を描き、それらを統合して、科学技術の発展による社会の未来像を描く。
- ターゲットイヤーは2040年（調査としては2050年までを展望）。
- AI関連技術等のICTを情報収集・分析に積極的に活用（自然言語処理など）。

科学技術や社会のトレンド把握（ホライズン・スキャンニング）

社会の未来像（ビジョニング）

ビジョンワークショップ（約100名）、地域ワークショップ（6か所+総合・連携、延べ約340名）、国際ワークショップ（14か国約60名）

4つの価値と50の未来像

Humanity

Inclusion

Sustainability

Curiosity

科学技術の発展による社会の未来像（シナリオ）

無形・個人

人間らしさを再考し、多様性を認め共生する社会

人の考えは…？

無形・社会

リアルとバーチャルの調和が進んだ柔軟な社会

仮想世界は…？

人間性の再興・再考による柔軟な社会

有形・個人

人間機能の維持回復とデジタルアシスタントの融合による「個性」が拡張した社会

人の機能は…？

有形・社会

カスタマイズと全体最適化が共存し、自分らしく生き続けられる社会

環境・社会は…？

科学技術の未来像（デルファイ調査）

・専門家アンケート（約5300名。NISTEP専門家ネットワーク、JST researchmap等）
・各界の有識者によるエキスパート・ジャッジ（科学技術予測調査検討会・分野別分科会計78名）

科学技術トピック 702件（7分野59細目）

未来につながるクローズアップ科学技術領域（横断8領域）

